

量子歴史の時間方向のエンタングルが
異時刻測定結果間の相関を作る

可能性B1

ファインマンの経路積分の被積分汎関数が
そういう量子歴史を表している

- ・ ファインマンの経路積分の被積分汎関数は
宇田方程式の解ではない
 - ・ ファインマンの経路積分では
第1測定より前と第2測定より後の部分では積分しない
 - ・ 測定回数が3回以上の場合はどうなるのか？
-

可能性B2

宇田方程式の解の中に
そういう量子歴史を表す物が有る

- ・ 2013年秋季大会で私が発表したダルマ落とし公式は
それを示そうとした物ですが
推論の過程に間違いが含まれている事が後で分かりました